

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和４年９月30日
【中間会計期間】	自 令和４年１月１日 至 令和４年６月30日
【発行者の名称】	デンマーク地方金融公庫（KommuneKredit）
【代表者の役職氏名】	最高経営責任者兼マネジング・ディレクター Jens Lundager マネジング・ディレクター Henrik Andersen
【事務連絡者氏名】	弁護士 黒 丸 博 善
【住所】	東京都港区六本木六丁目10番１号 六本木ヒルズ森タワー23階 T M I 総合法律事務所
【電話番号】	東京(03) 6438-5511
【縦覧に供する場所】	該当なし

第１【募集（売出）債券の状況】

売出債券の名称	発行年月	券面総額	前事業年度末 の未償還額	当該半期中 の償還額	当該半期末 の未償還額
デンマーク地方金融公庫 2027年7月30日満期 トルコ・リラ建 ディスカウント債券	2012年7月	2,500万 トルコ・リラ	2,500万 トルコ・リラ	0	2,500万 トルコ・リラ
デンマーク地方金融公庫 2022年8月22日満期 トルコ・リラ建債券	2015年8月	13,000,000 トルコ・リラ	13,000,000 トルコ・リラ	0	13,000,000 トルコ・リラ (注)

(注) 当該債券は2022年7月1日以降本書提出日までに全額が満期償還された。

2022年上半期中において、上記債券の所有者の権利等に重要な悪影響を与える事実は発生しなかった。

第2【発行者の概況】

注(1) 「公庫」とは、デンマーク地方金融公庫を意味する。

(2) 本書中、別段の記載がない限り、「デンマーク・クローネ」または「DKK」と表示される金額はデンマーク王国の通貨であるデンマーク・クローネを意味する。2022年9月22日現在、東京の主要銀行により公表されたデンマーク・クローネに対する日本円の為替相場の中値は1デンマーク・クローネにつき19.07円であった。

(3) デンマーク地方金融公庫の事業年度およびデンマーク王国の会計年度は暦年である。

(4) 本書中の表で、計数が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しないことがある。

1【概況】

2022年上半期の業績

2022年上半期における全般的な金利の上昇により、バランスシートは大幅に変動し、資産合計はわずかに減少した。純受取利息および貸付高（純額）は予測された通りとなった。

収益および自己資本

2022年上半期において純受取利息は1億8,700万デンマーク・クローネとなり、前年同期と比べて概ね横ばいで予測された通りとなった。

英文年次報告書（annual report）の偶発債務に関する財務書類注記4.1において記載のとおり、2014年以来、公庫は追加の給与税支払いに関する訴訟の当事者となっている。現在、本件の決定が下されており、追加の給与税支払いのための3,500万デンマーク・クローネの引当金が計上された。

上記の事情から、また、公庫の2025年戦略実施のための戦略プロジェクトが大きく進展したことから、2022年上半期の管理費用は前年同期の6,800万デンマーク・クローネから1億1,900万デンマーク・クローネに増加した。

価値調整前および税引前の当期利益は6,500万デンマーク・クローネとなり、前年同期より4,400万デンマーク・クローネ減少した。年間での価値調整前および税引前の当期利益が1億8,500万デンマーク・クローネと予想されていたことと比較すると、かかる上半期の業績は予想を幾分下回ったが、これは追加の給与税支払いに関する費用が増加したことによるものであった。

金融商品の価値調整は、2021年上半期には1億9,000万デンマーク・クローネであったのに対して、2022年上半期には5億3,500万デンマーク・クローネであった。この価値調整は主に、償却原価で測定される固定利率のリースのヘッジのための公正価値で測定されるデリバティブに対して価値調整が行われたことによるものであった。価値調整における要因の一つに投資収益の増加があり、投資収益が増加したため、当期の公庫の資金調達コストにおける金利の上昇に応じて貸付レートを引き上げる必要がなかった。

包括利益は、2021年上半期において2億3,300万デンマーク・クローネであったのに対し、2022年上半期には4億6,800万デンマーク・クローネであった。当期包括利益は持分に組み入れられ、持分は現在合計92億4,300万デンマーク・クローネに達している。理事会の目標に従い、資産に対する持分の比率で3%に相当する適切な資本が利益により確保されなければならない。資産に対する持分比率は3.8%で、理事会の定めた目標に沿っており、2022年について予測された3.7%を若干上回った。資産に対する持分比率が上回ったのは、主に資産合計の小幅の減少によるものであった。

リスク・エクスポージャー総額（REA）は、2021年12月31日には139億デンマーク・クローネであったのに対し、2022年6月30日には163億デンマーク・クローネに増加した。この増加は、主にユーロに対する通貨エクスポージャーとカウンターパーティー・リスクの高まりによるものであった。この結果、信用機関

のソルベンシー規則に基づいて算出された自己資本比率（リスク・エクスポージャー総額に対する自己資本の比率）は、2021年末現在の63%に対して56%となった。

貸付およびリース

貸付高（純額）（リースを含み、分割返済額および償還金額を控除した新規の貸付高）は、2022年上半期において34億デンマーク・クローネであった。顧客の年間の借入スケジュールによると貸付高（純額）は通常上半期に多くなるため、上記の貸付高（純額）は年間で45億デンマーク・クローネの予測に沿うものとなった。

貸付およびリースの合計は、2021年末現在の1,949億デンマーク・クローネから1,795億デンマーク・クローネに減少した。この減少は、2022年上半期における金利の全般的な上昇の結果、貸付へのマイナスの公正価値の調整が行われたことによる。

資金調達および投資

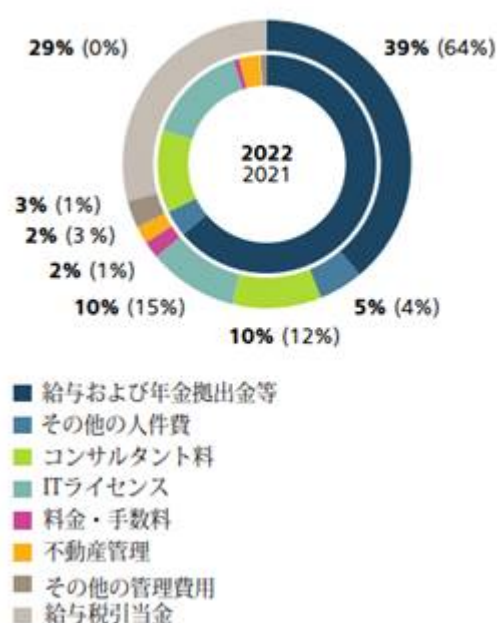
投資総額（すなわち、信用機関への債権および証券ポートフォリオ）は、流動性資金の増加に伴い、22億デンマーク・クローネ増加して511億デンマーク・クローネとなった。

資金調達累計額（すなわち、信用機関への債務および発行債券）は、121億デンマーク・クローネ減少して2,218億デンマーク・クローネとなった。この減少は主に、金利の全般的な上昇により発行債券に対して204億デンマーク・クローネのマイナスの価値調整が行われたことによる。これにより、マイナスの価値調整は公庫の発行債券の額面金額の増加を上回った。

資金調達残高の大部分は依然としてユーロ、米ドルおよびデンマーク・クローネ建てである。

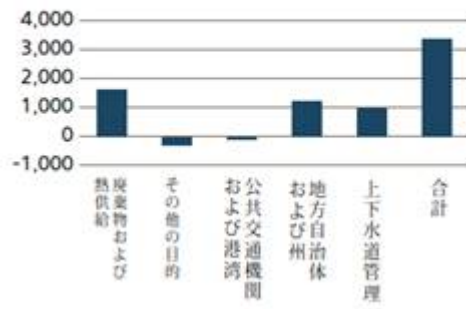
基礎的な活動が増加したにもかかわらず、金利の全般的な上昇を要因としたマイナスの価値調整により、資産合計は38億デンマーク・クローネ減少して2,453億デンマーク・クローネとなった。

管理費用



貸付高（純額）の推移

十億デンマーク・クローネ



2【資本構成】

デンマーク地方金融公庫の資本構成

	2022年 6 月30日現在 (百万デンマーク・クローネ)
発行債券（注 1 および注 2 ）	221,784
デリバティブの公正価値	13,204
その他の負債、年金および税を除く負債合計	234,988
その他の負債、年金および税合計	1,096
負債合計	236,084
持分	
2022年 1 月 1 日現在の持分	8,775
税引後当期利益	468
2022年 6 月30日現在の持分	9,243
資本合計	245,327

注 (1) 指数連動債に関して、残高は指数変動による調整を含む。

(2) 外国通貨による借入は、2022年 6 月30日の実勢為替レート、あるいは2022年中の借入に関しては実行日の為替レートにより、デンマーク・クローネに換算されている。

2022年 6 月30日以降、公庫の資本構成に重大な変化はなかった。

3【組織】

2022年1月1日以降、下記の変更があった。

理事会

2022年6月1日より、理事会構成員は下記のとおり変更された。

ヘンレク・ヴィーゼステン（理事長）	市 長
トマス・ルゲ・ピーダスン（副理事長）	市 長
イーレク・ラウリトスン	市 長
ピーダ・サアアンスン	市 長
ミケール・クリトゴー	市 長
ミケール・フェンガ	市 長
マーティン・ギアトスン	州議会議員
トアモーズ・オールスン	州議会議員
ピアギド・オーゴー・スヴェンスン	独立の構成員
スサネ・クーラ	独立の構成員

経営陣チーム

2022年1月1日以降、下記の変更があった。

2022年8月25日より就任：

イエスバ・ナアマーク・ヒーゼ

ディレクター、情報技術部門長、最高情報責任者

上記以外に、2022年上半期中およびそれ以降において公庫の組織に重大な変更はなかった。

4【経理の状況】

2022年1月1日から2022年6月30日までの期間の中間財務書類は、公庫の独立監査人であるデロイト公認会計士パートナーシップのAnders Oldau GjelstrupおよびJens Ringbæk（国家の承認を受けた公認会計士）によりレビューされ、さらに省により任命された監査役であるThorkil Juulによりレビューされている。

2022年および2021年6月30日現在または2022年および2021年6月30日に終了した6か月間の公庫の中間財務書類（レビュー済）は、以下のとおりである。

2022年1月1日から6月30日までの期間についての 包括利益計算書

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2022年 上半期	2021年 上半期
受取利息		719	749
支払利息		-532	-568
純受取利息		187	180
その他の営業利益		4	3
その他の営業費用		-6	-7
管理費用		-119	-68
価値調整前当期利益		65	109
金融商品の価値調整		535	190
税引前当期利益		600	299
当期利益課税額		-132	-66
当期利益		468	233
その他の包括利益			
保険数理上の損益		0	0
保険数理上の損益に対する税額		0	0
当期包括利益		468	233
計上先は以下の通り：			
持分への組入		468	233
合 計		468	233

2022年 6 月30日現在の貸借対照表

資 産

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2022年 6月30日現在	2021年 12月31日現在
信用機関への債権	3	571	501
貸付	3	170,766	187,045
リース		8,747	7,903
証券ポートフォリオ	3	50,530	48,387
デリバティブ金融資産	3、4	14,514	5,079
その他の資産		162	126
当期税金資産		37	36
資産合計		245,327	249,077

負 債 および 持 分

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2022年 6月30日現在	2021年 12月31日現在
負 債			
信用機関への債務		1	0
発行債券	3	221,784	233,892
デリバティブ金融資産	3、4	13,204	5,307
その他の負債		579	568
当期税金負債		56	75
繰延税金負債		460	460
負債合計		236,084	240,302
持 分		9,243	8,775
負債および持分合計		245,327	249,077

2022年 1 月 1 日から 6 月30日までの期間についての持分変動計算書

(単位：百万デンマーク・クローネ)

注記	2022年 上半期	2021年 上半期
持分		
1 月 1 日現在の持分	8,775	8,397
持分への組入		
当期利益	468	233
その他の包括利益		
保険数理上の損益	0	0
その他の包括利益に対する税額	0	0
その他の包括利益（税引後）	0	0
持分への組入合計	468	233
6 月30日現在の持分	9,243	8,630

当期包括利益は公庫の定款に従い持分（資本）に組入れられる。

持分は、2021年度末の87億7,500万デンマーク・クローネから2022年 6 月30日現在には92億4,300万デンマーク・クローネに増加した。2022年 6 月30日現在、資産合計に対する持分の割合は2021年度末現在よりわずかに上昇して3.8%となった。持分は組入れられた包括利益全体からなる。

公庫に適用される法的枠組みの下では、持分は負債合計の少なくとも1.0%（すなわち23億6,100万デンマーク・クローネ）に等しくなければならない。理事会の目標は、資産に対する持分の割合を公庫の活動を支えるために適切と考えられる3%に少なくともすることである。

2022年 1 月 1 日および2022年 6 月30日における持分には、200万デンマーク・クローネの再評価準備金が含まれている。

2022年1月1日から6月30日までの期間についての キャッシュフロー計算書

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2022年 上半期	2021年 上半期
税引前当期利益		600	299
減価償却費、償却費および減損費用		0	-
支払法人税		-150	-50
合計		450	249
純受取利息		-187	-180
受取金融収益		719	749
支払金融費用		-532	-568
貸付の変動		15,435	1,300
証券の変動		-2,143	-3,178
発行債券の変動		-12,108	4,242
デリバティブ金融負債の変動		7,896	-4,221
デリバティブ金融資産の変動		-9,435	1,679
その他の資産の変動		-37	-15
その他の負債の変動		11	19
営業活動からのキャッシュフロー		69	76
投資活動からのキャッシュフロー		-	-
現金・現金同等物残高の変動		69	76
1月1日現在の現金・現金同等物残高		501	22
6月30日現在の現金・現金同等物残高		570	98
詳細は以下のとおり：			
信用機関への預け金		571	305
信用機関への短期債務		-1	-207
6月30日現在の現金・現金同等物残高		570	98

注 記

注記１ 会計方針

一 般

本中間報告書の対象期間は、2022年１月１日から同年６月30日までである。

中間報告書は、欧州連合（EU）が採用している国際会計基準（IAS）第34号「中間財務報告」および追加的な中間報告開示要件に従い表示されている。

別途記載されていない限り、中間報告書の金額は全て百万デンマーク・クローネ単位で記載されている。記載されている合計額は、四捨五入前の実際の金額に基づき計算されたものである。金額は百万デンマーク・クローネ単位に四捨五入されているため、個別の金額の合算額と合計表示額とで多少の差額が生じる場合がある。

会計方針は、2021年度の年次報告書で適用されている方針と一致している。会計方針の全容は年次報告書を参照のこと。

会計方針の変更点

2022年事業年度以降に発効し2022年度の財務報告に影響を与えると考えられる新規のまたは改正された国際財務報告基準（IFRS）および解釈指針はない。

重要な会計上の見積りおよび判断

中間財務書類の作成において、経営陣は多くの会計上の見積りおよび判断を行う。この見積りおよび判断は、経営陣が合理的かつ現実的であると判断した仮定に基づき会計方針に従ってなされるが、これらは本質的に不確定で予測不能である。会計上の見積りおよび判断は、過去の実績および将来の状況の評価が確実に反映されるよう、継続的なプロセスによりテストおよび評価される。

公正価値の算出が市場で直接観測できないインプットに基づく場合、および反対の影響が示されない場合、会計上の見積りおよび判断は財務書類に非常に重要な影響を有するとみなされる。

特に、債券サーキットを構成しない発行債券の評価に関する見積りおよび判断は、財務書類に影響を与える可能性がある。これらの債券には活発な市場が存在せず、結果としてその評価には重要な会計上の見積りが用いられる。

一部のデリバティブの評価に用いる見積りおよび判断もまた、市場で直接観測可能な価格が存在しないことから、財務書類に影響を与える可能性がある。一般に認められているキャッシュフローモデルの観測可能なインプットで代用されている。

債券サーキットを構成しないローンの評価において、観測可能な市場が存在せず、それゆえ公庫は独自のさしあたりの貸付価格を市場価格として適用している。

その他の全ての金融商品について、その評価に重要な見積りは含まれていない。これらの商品には、活発な市場における相場価格が存在するか、または適用される見積りに重要な会計上の影響がないためである。

2021年度の年次報告書と比較して会計上の見積りに変更はなく、金融商品の公正価値に関する会計判断および見積りの決定のために適用される方法および原則の全容は、2021年度の年次報告書に記載されている。

COVID-19は、公庫の業績または財政状態に重大な影響を及ぼさなかった。追加情報については、management's review（訳者注：英文Interim Report First Half 2022における「management's review」という項目を指す。）に記載されている。

注記2 貸借対照表日後の事象

貸借対照表日後に生じた重要な事象はない。

注記3 金融商品の公正価値の詳細

IFRS第13号に従い、公正価値で測定される金融商品は、その公正価値が決定される方法および基準とするデータによって、公正価値についてのレベル1から3の階層に分類されなければならない。公正価値は、金融資産または金融負債が必要な知識を持つ自発的な取引相手との間で取引されうる価額である。

公正価値は、以下の階層に従い測定される。

レベル1：

同一の資産または負債についての活発な市場における相場価格。

レベル2：

類似の資産もしくは負債についての活発な市場における相場価格に基づくか、または観測可能なインプットにより実質的に基礎付けられるその他の評価手法に基づく、観測可能なインプット。

レベル3：

評価が観測可能なインプットによっては実質的に基礎付けられていない、観測不能なインプット。

レベル2およびレベル3の公正価値は、一般に認められているモデルに基づき評価される。公庫は、A)流動性、信用リスクおよび転換権について調整された類似の債券の上場市場での価格、ならびにB)全ての見積りキャッシュフローおよび固定キャッシュフローをゼロクーポン・イールド・カーブ、金利の期間構造およびオプション・モデルを用いて割引く割引キャッシュフローモデルの双方を用いている。

A)公庫は、発行債券および貸付の一部につき、流動性、信用リスクおよび転換権について調整された類似の債券の上場市場での価格を用いており、これを債券サーキットという。債券サーキットはモーゲージ信用残高の原則に基づいていることで特徴づけられ、公庫が発行した債券を構成する条件が債券発行により調達された資金による顧客への貸付に直接転嫁され、公庫が決定した貸付マージンが加えられる。

債券サーキットにおける証券はナスダック（コペンハーゲン）に上場されているが、債券はその取引頻度および取引量が不十分であるため非流動的である。したがって、上場市場での価格は使用できず、その代わりに、流動性、信用リスクおよび転換権について調整された類似の証券の上場市場での価格が用いられる。類似の証券とは、類似の特性を有するモーゲージ債または政府債である可能性がある。顧客への貸付に対する信用リスクは、発行債券に対応しているため、発行債券の価格は債券発行により調達された資金による貸付にも用いられている。よって、価格変動は損益に影響を与えない。

B)公庫は、デリバティブ、非流動的とみなされる発行債券の上記以外の部分、および債券サーキットを構成しない公正価値で評価される貸付につき、割引キャッシュフロー法を用いている。

レベル2の公正価値の算出には、スワップレート、クロスカレンシー・ベースス・スワップ・スプレッド、テナー・スプレッドおよび為替レート等の観測可能なインプットが含まれている。また、発行債券の評価は公庫の実際の資金調達費用についての見積りを含む。貸付の評価には、公庫の現在の貸付価格が含まれる。公庫は、見積もられた当座の資金調達費用に応じて実際の貸付価格を定期的に調整することによ

り、貸付マージンを相対的に一定に保つよう努めている。実際の資金調達費用の見積りに関する感応度は、当座の貸付価格の変動により一部相殺されることになる。これによると、価値調整全体による正味の影響は最大でプラス/マイナス 2 億5,000万デンマーク・クローネの範囲内と考えられる。

公庫のごく一部の発行債券およびデリバティブは、公正価値レベル3に分類されている。当該レベルは、仕組債および関連するヘッジ・デリバティブに用いられており、そのインプットは、公正価値レベル2に適用されるインプットに加えて、通貨、株式およびコモディティのボラティリティならびにそれらの相関といった観測不能なインプットから成る。発行済仕組債はデリバティブによりミクロ・ヘッジされており、よって観測不能なインプットの変動は、発行における変動がデリバティブと逆に作用するため、利益に重要な影響を及ぼすことはない。

公庫は、金融商品を利用することにより市場リスクを解消するリスク管理戦略を追求している。この結果、レベル2およびレベル3に基づく公正価値を算出するのに用いられる見積りおよび仮定の変更による包括利益計算書および持分への影響（正味ベースでみた総額による）は縮減されており、資金調達費用および貸付価格の変動を含むにとどまる。

現在進められている「金利指標改革」は、「ロンドン銀行間取引金利（LIBOR）」を代替のリスクフリーレートに置き換えることを目的としている。公庫は2つの点でこの改革による影響を受けることになる。1つは、現行の契約に基づく将来のLIBORに基づく利息支払いは、新たな代替リスクフリーレートに基づく利息支払いに置き換えられる必要がある点である。もう一つの点は、レベル2および3の公正価値の評価におけるキャッシュフローの割引は、新たな代替のリスクフリーのスワップレートに基づくものにする必要がある点である。

公庫は、フォールバック条項に関する国際スワップ・デリバティブ協会（ISDA）のプロトコルの規定により同プロトコルを適用している。利息支払いとキャッシュフローの割引のスワップレートについての変更は、公正価値の調整または収益のいずれにも重大な影響を与えていない。

公庫は、2022年6月30日より後に存続するLIBOR金利に基づく利息支払いには、LIBOR金利の適用を継続し、従来の依然として存続している、対応するLIBORスワップレートをLIBORの影響を受ける通貨でのキャッシュフローの割引に引き続き使用する予定である。LIBORの影響を受けるこれ以外のキャッシュフローの大半はヘッジされているため、LIBOR金利およびLIBORスワップレートからの移行は、公正価値または収益のいずれにも重大な影響を及ぼすとは予測されていない。

2022年上半期におけるレベル間の組み替えはなかった。

(単位：百万デンマーク・クローネ)

金融商品の公正価値の詳細

2022年6月30日現在

資 産

	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合 計
信用機関への債権	571	0	0	571
貸付	0	170,766	0	170,766
証券ポートフォリオ	50,530	0	0	50,530
デリバティブ金融商品	0	13,968	546	14,514
資産合計	51,101	184,734	546	236,381

負 債

信用機関への債務	1	0	0	1
発行債券	0	216,141	5,643	221,784
デリバティブ金融商品	0	12,940	264	13,204
負債合計	1	229,081	5,907	234,989

2021年12月31日現在

資 産

信用機関への債権	501	0	0	501
貸付	0	187,045	0	187,045
証券ポートフォリオ	48,387	0	0	48,387
デリバティブ金融商品	0	4,443	636	5,079
資産合計	48,888	191,488	636	241,012

負 債

信用機関への債務	0	0	0	0
発行債券	0	228,165	5,727	233,892
デリバティブ金融商品	0	5,057	250	5,307
負債合計	0	233,222	5,977	239,199

(単位：百万デンマーク・クローネ)

レベル3の公正価値の詳細

2022年6月30日現在

資 産

	1月1日現在	新 規	処 分	当期利益における認識額	6月30日現在
信用機関への債権	0	0	0	0	0
貸付	0	0	0	0	0
証券ポートフォリオ	0	0	0	0	0
デリバティブ金融商品	636	0	0	-90	546
資産合計	636	0	0	-90	546

負 債

信用機関への債務	0	0	0	0	0
発行債券	5,727	0	-75	-9	5,643
デリバティブ金融商品	250	0	-52	66	264
負債合計	5,977	0	-127	57	5,907

	1月1日現在	新 規	処 分	当期利益における認識額	12月31日現在
--	--------	-----	-----	-------------	----------

2021年12月31日現在

資 産

信用機関への債権	0	0	0	0	0
貸付	0	0	0	0	0
証券ポートフォリオ	0	0	0	0	0
デリバティブ金融商品	816	0	-1	-179	636
資産合計	816	0	-1	-179	636

負 債

信用機関への債務	0	0	0	0	0
発行債券	6,360	0	-538	-95	5,727
デリバティブ金融商品	397	0	-220	73	250
負債合計	6,757	0	-758	-22	5,977

注記4 金融商品の公正価値の詳細

公庫は、マスター・ネットティング契約（ISDAマスター契約）にクロス取引の支払いのネットティングについての合意が含まれる場合に、外国為替取引およびデリバティブを差金ベースで決済している。差金決済の場合は必然的に貸借対照表においてデリバティブの会計上の価額には相殺を含めることになる。相殺総額は、2021年12月31日現在で64億7,300万デンマーク・クローネであったのに対し、2022年6月30日現在では79億1,400万デンマーク・クローネとなった。

ISDAマスター契約にクロス取引の支払いのネットティングが含まれない場合、会計上の価額は相殺を含まない。相殺されていないデリバティブのネットティング金額は、取引相手ごとに算出される資産および負債のうち少額である方を上限とする。かかる金額は資産および負債の双方に含まれる。

ISDAマスター契約には、デリバティブに関連する片務的または双務的担保契約が含まれる。これらの契約に基づく受入担保および差入担保は、高格付の債券のみからなる。担保価額は取引相手ごとに算出され、債券が担保として提供される金融商品の純額を上限とする。担保契約は、通常取引のためではなく専ら倒産の場合に備えて担保の相殺を認める。担保価値に対して相殺は適用されない。

公庫は、貸付、リースまたは発行債券に関して、ネットティング契約の締結および担保の差入れまたは受入れを行っていない。このためこれらの金融商品は以下の表に含まれていない。帳簿価額は貸借対照表から引用している。

(単位：百万デンマーク・クローネ)

貸借対照表において表示されたデリバティブ

	財政状態計算書上 相殺された金額			財政状態計算書上 相殺されていない金額		
	帳簿価額 総額	相殺額	帳簿価額	金融商品	担 保	純 額
2022年6月30日現在						
資 産	22,428	-7,914	14,514	-1,440	-12,274	800
負 債	21,118	-7,914	13,204	-1,440	-10,369	1,395
純 額	1,310	0	1,310	0	-1,905	-595
2021年12月31日現在						
資 産	11,552	-6,473	5,079	-941	-3,075	1,063
負 債	11,780	-6,473	5,307	-941	-2,049	2,317
純 額	-228	0	-228	0	-1,026	-1,254

注記5 流動性資金

監督当局は、前四半期末における貸付総額の25%を限度として事前調達により流動性資金を積み立てることを公庫に対して認めている。当期末の上限額は464億デンマーク・クローネであり、公庫の流動性資金は410億デンマーク・クローネであった。限度に対する流動性資金の割合は2022年上半期に変動しており、月末で見た場合の流動性資金の最高割合は22%であった。

流動性資金は、帳簿価額で計上された信用機関への債務、発行債券およびデリバティブから貸付総額およびリース債権を控除して算出される。

(単位：百万デンマーク・クローネ)

流動性資金	2022年 6月30日	2021年 12月31日
信用機関への債務、発行債券およびデリバティブ		
信用機関への債務	1	0
発行債券	221,784	233,892
デリバティブ（負債）	13,204	5,307
デリバティブ（資産）	-14,514	-5,079
信用機関への債務、発行債券およびデリバティブ総額	220,475	234,120
貸付およびリース		
貸付	170,766	187,045
リース	8,747	7,903
貸付総額	179,513	194,948
流動性資金	40,962	39,172

流動性資金は前四半期末現在の貸付総額の25%を超過してはならない。

流動性資金	40,962	39,172
2022年3月31日（前四半期末）現在の貸付総額	185,563	193,841
流動性資金の割合（%）	22	20

注記6 主要な指標および財務比率

(単位: 百万ユーロ / 百万デンマーク・クローネ)

	2022年 上半期	2022年 上半期	2021年 上半期	2020年 上半期	2019年 上半期	2018年 上半期	2021年
	ユーロ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ
当期の主要な指標							
純受取利息	25	187	180	221	250	235	383
その他の営業利益	0	4	3	5	7	6	8
その他の営業費用	-1	-6	-7	-8	-7	-7	-13
管理費用	-16	-119	-68	-67	-62	-62	-140
価値調整前当期利益	9	65	109	152	187	172	238
金融商品の価値調整	72	535	190	35	218	163	249
当期利益課税額	-18	-132	-66	-41	-89	-74	-109
当期包括利益	63	468	233	145	316	261	378
貸付およびリース	24,131	179,513	191,156	190,698	185,878	176,788	194,948
証券ポートフォリオ	6,792	50,530	36,745	37,609	42,181	45,683	48,387
資産	32,978	245,327	234,368	236,685	237,182	229,599	249,077
発行債券	29,813	221,784	216,970	216,443	216,451	207,718	233,892
持分	1,242	9,243	8,630	8,324	8,052	7,593	8,775
当期における活動							
貸付およびリース (額面価額の純増加額)	453	3,367	3,782	3,914	2,774	3,423	8,675
貸付およびリース (額面価額の総増加額)	2,273	16,912	19,874	23,926	17,995	24,067	36,958
発行債券 (額面価額の総増加額)	4,479	33,319	35,229	26,855	31,762	42,871	65,112

(単位：百万ユーロ / 百万デンマーク・クローネ)

	2022年 上半期	2022年 上半期	2021年 上半期	2020年 上半期	2019年 上半期	2018年 上半期	2021年
	ユーロ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ
資本構成							
リスク・エクスポージャー総額 (REA)	2,187	16,267	12,202	13,817	14,366	19,926	13,859
普通株式等Tier1 (CET1) 資本	1,242	9,243	8,630	8,324	8,052	7,593	8,775
自己資本	1,228	9,136	8,530	8,165	7,851	7,340	8,660
自己資本比率 (%)	56	56	70	59	55	37	63
資産合計に対する持分の比率 (%)	3.8	3.8	3.7	3.5	3.4	3.3	3.5
財務比率 (要約)							
貸付およびリースにおける損失	0	0	0	0	0	0	0
資産に対する管理費用の比率 (%)	0.05	0.05	0.03	0.03	0.03	0.03	0.06
資産に対する純受取利息の比率 (%)	0.08	0.08	0.08	0.09	0.11	0.10	0.15
流動性資金の割合 (%)	22	22	15	15	18	22	20
正規従業員数	94	94	87	79	74	69	88

主要な指標および財務比率は、デンマークCFA (公認証券アナリスト) 協会 (CFA Society Denmark) により発行された「勧告および財務比率」に従い算出されている。

2022年6月30日現在の為替レート：100ユーロ = 743.91デンマーク・クローネ。

第 3 【外国為替相場の推移】

(1) 【当該半期中における月別為替相場の推移】

該当事項なし

(2) 【最近日の為替相場】

該当事項なし